

Title	ニーバー「秘儀と意味」(Mystery and Meaning) をめぐって (共同研究報告：ラインホルド・ニーバー研究)
Author(s)	兼松, 誠
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.3 : 33-34
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=3530
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

【ラインホルド・ニーバー研究】
ニーバー「秘義と意味」(Mystery and
Meaning)をめぐって

10月3日、第2回ニーバー研究会が催された。
参加者は27名であった。講演者は本学大学院教授



高橋義文 聖学院大学大学院教授

高橋義文氏であった。これまでの研究会は依頼人に講演をしてもらうというスタイルであったが、今回はニーバーのテキストにそって議論を深めていこうとする〈勉強会〉に近いスタイルが初めての試みとして採用された。テキストはニーバーの「秘義と意味 Mystery and Meaning」であり、来場者には高橋氏自身による翻訳と解説が配布された。

高橋氏は「秘義と意味」を次のように要約する。

①人間存在の究極的な問題は、それに意味があるのかどうか、それが理解できるかどうか、である。②人間存在は、矛盾と不調和に満ち、秘義の半影 penumbra に包まれている。秘儀にもかかわらず意味があり、意味は秘義に覆われている。それは、人間をめぐる、創造、自由、罪の三つ秘義分析に明らかである。③それゆえ、その正確な理解は、少なくとも合理主義や神秘主義では不可能である。合理主義は、理性に頼るため理性を超えた秘義をとらえることができず、他方、神秘主義は、秘義を認めはするが秘義に隠された意味を捉えることができないからである。④人間存在をめぐる秘義と意味の解明の手がかりは、キリストの出来事における啓示への信仰である。秘義に包まれている意味が、秘義の存在を損なうことなく明らかとすることができる。⑤この洞察は、謙虚な信仰生活の証しによってのみ立証される。しかし、その洞察は、人間の普遍的な経験に合致しており、一定の普遍的妥当性をもつものである。

高橋氏によると、この論文はニーバーの思想の本質的な特徴が凝縮されている。それは以下の点に見出されるという。①ニーバーが重視した〈意味への問い〉（ニーバーにとってキリスト教は、

人間存在と歴史に意味を見出し、与える宗教であった）。②秘義と意味の弁証法と人間の精神の理解の独自性。③キリストの出来事（啓示）の決定性。十字架の中心性。④弁証学的意義。つまり、人間存在と歴史の理解についてのキリスト教の洞察の弁証法の試みとなっている。ニーバーは、合理主義や神秘主義の哲学思想に対し、もうひとつの実在理解を示し、その妥当性を主張している。特に自由に根を持つ罪の秘義は、普遍的に経験されるものである故に、それへの答えは、一つの立場を占めていると主張している。この見方が、ニーバーのキリスト教政治的現実主義の根幹をなしている。高橋氏によると、ここに、ニーバーの現実主義の深みの次元が見られるのであり、ニーバーの神学はもとより、現実主義を取り上げる際に、忘れてはならない議論であるとされる。

高橋氏の発表の後、コメンテーターを担当した本学総合研究所長の大木英夫氏が「秘義と意味」の重要な箇所をピックアップし、問題として取り上げ、その都度来場者の質問を受け付けるというかたちで本日の会は進行し、終了時間の午後7時を迎えたのであった。

（文責：兼松誠 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程）

（2011年10月3日、聖学院本部新館2階）



高橋義文教授による解説をもとに議論を深めた。